

CASBEE-建築(新築)2014年版
 ジャベル株式会社 関西支店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

ス1アシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配成項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境						2.9
1 音環境			2.6	0.15	-	2.6
1.1 騒音			3.0	0.40	-	
1.2 遠音			3.0	0.40	-	
1 開口部遮音性能			3.0	0.60	-	
2 界壁遮音性能			3.0	0.40	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	
1.3 吸音			1.0	0.20	-	
2 温熱環境			3.0	0.35	-	3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	-	
1 室温			3.0	0.38	-	
2 外皮性能			3.0	0.25	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	-	
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	
3 光・視環境			3.0	0.25	-	3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.30	-	
1 昼光率			3.0	0.60	-	
2 方位別開口			-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	-	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	-	
1 昼光制御			3.0	1.00	-	
3.3 照度			3.0	0.15	-	
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	
4 空気質環境			2.9	0.25	-	2.9
4.1 発生源対策			3.0	0.50	-	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	-	
4.2 換気			3.3	0.30	-	
1 換気量			3.0	0.33	-	
2 自然換気性能		建築基準法を満たすように配慮しました。	4.0	0.33	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	-	
4.3 運用管理			2.0	0.20	-	
1 CO ₂ の監視			1.0	0.50	-	
2 喫煙の制御			3.0	0.50	-	
Q2 サービス・ビネス性						3.2
1 機能性			3.2	0.40	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ			3.6	0.40	-	
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースを12㎡以上確保しました。	5.0	0.33	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33	-	
3 バリアフリー計画			3.0	0.33	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	
1 広さ感・景観		天井高2,700と窓を確保しました。	4.0	0.33	-	
2 リフレッシュスペース		休憩室の床面積を事務室の1%以上確保しました。	4.0	0.33	-	
3 内装計画			1.0	0.33	-	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性			2.7	0.30	-	2.7
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	
1 耐震性			3.0	0.80	-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	

2.4 信頼性			1.6	0.20				
1	空調・換気設備		3.0	0.20				
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20				
3	電気設備		1.0	0.20				
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20				
5	通信・情報設備		1.0	0.20				
3 対応性・更新性			3.6	0.30				3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30				
1	階高のゆとり	階高を3,800以上確保しました。	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1を確保しました。	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30				
3.3 設備の更新性			3.0	0.40				
1	空調配管の更新性		3.0	0.20				
2	給排水管の更新性		3.0	0.20				
3	電気配線の更新性		3.0	0.10				
4	通信配線の更新性		3.0	0.10				
5	設備機器の更新性		3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20				
Q3 敷外環境(敷地内)			3.0	0.30				3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性								3.0
LR1 省エネルギー			3.0	0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.03				1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12				3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	4.6	0.81				4.6
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEI値に配慮しました。	4.6	1.00				
集合住宅の評価(3c)								
4 効率的運用			3.0	0.24				3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00				
4.1 モニタリング			3.0	0.50				
4.2 運用管理体制			3.0	0.50				
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル			3.0	0.30				2.4
1 水資源保護			2.2	0.20				2.2
1.1 節水			1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70				
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60				2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10				
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70				
1 消火剤								
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50				
3 冷媒			3.0	0.50				
LR3 敷外環境			3.4	0.33				2.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率に配慮しました。	3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮			1.9	0.33				1.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25				
1 雨水排水負荷低減								
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33				
3 交通負荷抑制		駐車スペースを多く確保しました。	4.0	0.33				
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33				
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33				2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1 騒音			3.0	0.33				
2 振動			3.0	0.33				
3 悪臭			3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40				
1 風害の抑制			1.0	0.70				
2 砂塵の抑制								
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				